

三平代表コラムNO. 20

熊本県で発生した地震は、今なお余震が続いている状況で、被災されている皆様には心よりお見舞い申し上げます。

家の倒壊などにより、多くの尊い命が奪われましたが、さらに長引く避難生活においてエコノミー症候群など災害関連死による死者も増えてきています。テレビ、新聞などの報道だけでは皆様の精神的、肉体的な苦痛はその一端しか知ることができませんが、心が痛みます。

東日本大震災と同様に、今回の熊本県地震でも、多くの人々が現地に赴いてボランティア活動をしています。このことは、日本人の相互扶助の精神、連帯意識の表れであり、その国民性を誇らしく思います。

他方、このような直接的支援ができず、何もできないもどかしさや、無力感を感じている方も多くいらっしゃるでしょう。しかし、一人一人ができる支援は小さなことですが、今起きていることに皆が思いを寄せ続けることが、大きな支援につながり、何よりも大切なことだと思います。また、日々の自らの仕事を取組んでいくことも、間接的な支援につながるのではないのでしょうか。

さて、この災害で会社が倒壊し、設備機器が使えなくなり事業の継続が困難になっている企業や、一定期間の休業を余儀なくされる企業もあるでしょう。人間にとって働くという事は、単に生活の為だけでなく、その収入の多寡にかかわらず生きていることの証ともいえます。その意味で、一日でも早く仕事ができる状況になり、生きる勇気を一層奮い立たせることができるようになることが望まれます。

我々の仲間である熊本県の社会保険労務士は、幸い全員無事でした。自分たちの生活再建も大変かと思いますが、地域の企業や従業員の生活再建、復興のために、年金、医療、介護保険などの社会保険制度や人事労務分野の専門家として、その職責を果たしていくことが期待されています。全国の社労士も全力でサポートする体制で準備を進めているところです。

このような災害発生時には、高齢者や障がい者、妊産婦といった弱い立場の方々に配慮しなければいけないのは当然ですが、不十分、不適切な対応により、高齢者や障がい者の尊厳を損なう危険な状況になりかねません。この点は過去の災害時において指摘されてきており、十分な配慮が求められるところです。

平常時、企業、職場において、高齢者や障がい者、妊産婦、育児・介護中などの従業員に対して必要な配慮がなされていれば、災害時の対応だけでなく、組織全体において有機的な連携のもとに、一層の活性化が図られるのではないのでしょうか。

被災地域では、今なお、余震が続くなか、ひと時も心が休まることなく過ごされていることと思いますが一刻も早く、一筋の光が見いだされる時がくることを心より願っています。